

第21回学習会を、平成22年5月21日(金)19:00～20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第21回目の内容

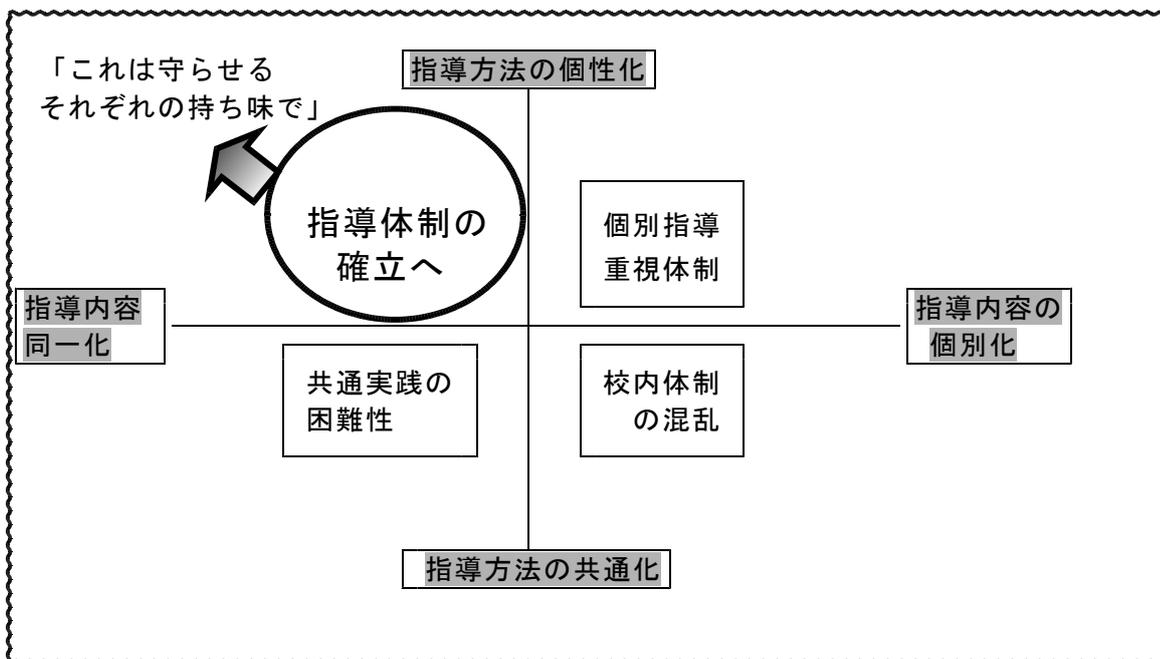
講師 重枝一郎先生(福岡市教育センター主任指導主事)

- 1 教師のソーシャルスキル
- 2 実践ビデオ紹介
- 3 エクササイズの実験活動



## ○教師のソーシャルスキル

### 指導方法・指導内容 (図1)



「共通実践しよう 持ち味を生かして！」

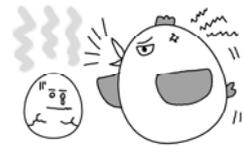
ところが

生徒との関係がうまくいかない  
学級経営がうまくいかない

なぜ？



- ・きつい言い方をして，抵抗感をもたれる
- ・言い方が暗くて，損をする
- ・善意なんだけど，押しつけがましくて嫌われる
- ・表現がヘタで理解されず，敬遠される



※ 悪い人ではない 悪い印象や誤解を与える人



## 教師のソーシャルスキルの3つのポイント

- ①相手がどのような人か理解し
- ②自分の思いを  
相手が理解できるような言葉や態度にして
- ③適切に相手に伝える

--- 【できていないタイプ】 ---

理解が適切でない

①はできているが  
言葉や態度に置き換えていない

①②はできているが  
適切に伝えていない



①理解が適切でない・・・



ベテラン教師は，ある程度生徒理解ができる  
しかし，生徒の一面を見て，自分の経験則を加味してわかったつもりになる  
かつての生徒たちのレベルを前提にして，評価・対応してしまう

②相手が理解できるような言葉や態度に置き換えていない・・・



一度，相手のスタイルを受け入れてから，そのスタイルでは無理があることを  
教える

③適切に相手に伝えていない・・・



言い方がぎこちない・頼りない・暗い・命令調・話されたときの状況

自分のしたい状況にもっていく  
タイミングという武器

※「人を見て法を説け」  
〔釈迦が相手の能力や人柄  
に応じて法を説いたこと  
から〕人に応じた働きか  
けをしなければ，相手の  
気持ちをつかむことはで  
きないという意味。

〈 内容より影響大 〉  
話しているときの話し手の顔の表情や雰囲気  
ノンバーバルなコミュニケーション

「人を見て法を説け」

## ソーシャルスキルの定義

多くの人の中で、まわりの人に受け入れられる形で  
自分の個性を発揮するために必要な技術

※「配慮とかかわりのスキル」 〈hyper - QU〉

→河村茂雄（早稲田大学教育総合科学学術院教授）が開発した「配慮とかかわり」の2つの領域から成り立っている「学級生活で必要とされるソーシャルスキル」

「配慮のスキル」

対人関係における相手への気遣い，対人関係における最低限のマナーやルール

〈例〉 「何か失敗したときにごめんなさいと言う」

「友達が話しているときには，最後までその話を聞く」など

「かかわりのスキル」

人とかかわるきっかけづくり，対人関係の維持，感情交流の形成，

集団活動に主体的にかかわる姿勢など能動的な行動

〈例〉 「自分から友達を誘う」

### 解説

#### 発想を広げる「視点移動力」

「風土会」の学びの中で，少しでも「やってみよう」「取り入れてみよう」「生徒にトライしてみよう」ということがあれば，それが教師の武器になるので，学校の雰囲気や生徒の実態に合わせて，現場でチャレンジしてほしいと思います。今回のテーマは「教師のソーシャルスキル」です。今までに，生徒向けのソーシャルスキルについては，何度も学んできました。物事は何でも，一面から見のではなく，『視点移動力』が大切です。それは，頭を柔軟にし，発想を広げてくれます。両面でいろいろなことを考えるのです。「風土会」に参加されることも，新たな「視点」を得る機会になっているのかもしれない。

#### 必要な「スキル」は身に付けられる！

「風土会」で学んだことや，それ以外でも，何かをやってみてうまくいかないときは，実は，自分の伝えるスキルが弱いのではと思い当たることがあると思います。それは「スキル」の問題です。「スキル」とは，訓練や経験によって身につけることができる技能です。教師は子どもの変化や時代の変化に合わせて，必要なスキル（技能）を身につける必要があるのだと思います。

#### 教師の協働性

学校は組織です。一人のカリスマリーダーが学校を良くしていくのではなく，教師が協働性を発揮して，チームで共通理解・共通実践をすることが現場で求められています。

例えば，生徒指導を行うときには，指導内容は同一です。それを共通実践するのです。しかし，指導方法はそれぞれの教師が自分の持ち味を生かして行います。それが学校では，一番良い方法です。「指導体制が確立」されることとなります。（参照：図1左上）

指導内容をすべての教師が，同じやり方で同じようにやろうとすると，「できる人」「できない人」が出てきます。これは，共通実践の困難性を招きます。（参照：図1左下）

個別指導については，特別な配慮を要する生徒には絶対に必要です。例えば，不登校生徒への指導などです。（参照：図1右上）

指導内容が共通理解されずに，教師によってバラバラだと，校内体制は混乱します。そこは，学校組織のあり方事態を見直す必要があります。（参照：図1右下）

しかし，指導体制が確立されていて，それぞれの教師が持ち味を生かして協働性を発揮できる体制が整っている学校でも，「学級経営がうまくいかない」「授業崩壊気味になっている」ということがあるのです。それはなぜでしょうか？？

## 悪い人ではないのに、悪い印象や誤解を与える人

職員室での同僚間でも、瞬時に、気の利いた言葉かけをしたり、伝わるような態度ができてい  
るでしょうか？人生における悩みや、ストレスのほとんどは、「人間関係」にあるといわれます。  
しかし、人生における喜びや感動もまた、「人間関係」から生まれるのです！

例えば、学校を異動したり、新しい環境に入っていくと、人は誰しも緊張感やストレスを感じる  
ものです。そんなときに、「教師のソーシャルスキル」が身につけていれば・・・・・・・・  
これは、対教師、対生徒、対保護者などなど、誰に対してもいえることです。

「ソーシャルスキル」とは社会性のことなので、必要なスキル（内容）はたくさんあります。  
だからこそ、定義づけることで、自分自身の理解にもつながるし、学校や生徒に浸透させること  
もできます。例えば、「配慮とかかわりのスキル」をメインに考えると、理解しやすいかもしれ  
ません。つまり、相手への気遣いと自分から進んで人とかわる技術です。それを、まわりの人  
に受け入れられる形で、自分らしく発揮するのです。スキル（技術）が身につけていないと、相  
手に受け入れられません。そこには、適切に伝えられていない何かがあるのです。

## すべて、「結果」には「原因」がある・・・・・・・・

①ベテラン教師に多いのは、経験知があるので、出会ったばかりの生徒でも「こんなタイプ」だ  
とすぐに分かってしまいます。もちろん、それも大切なのですが、わかったつもりになって、  
生徒をしっかり見ることがおろそかになっていませんか？さらに、「昔の生徒はこれくらいで  
きたのに・・・」「あの学校では、これくらいあたりまえだったのに・・・」など、ポジティ  
ブな気持ちが消えていくというのは、よくないのでは・・・？

そこから、「うまくいかない・・・」がはじまっているのかも・・・？

②例えば、小学校の担任とはリレーション（人間関係）ができていて、中学校に入っても馴れ馴  
れしい態度の生徒がいたとします。それを頭ごなしに、中学校のペース（自分の教師スタイル）  
で指導をしてしまうと、それを素直に受け入れられない生徒もでてきます。それが深刻になる  
と、不登校問題に発展することもあります。いわゆる、中1ギャップにつながる問題です。  
まずは、少し前まで小学生だった生徒の実態を受容してから、中学生としてのマナーやルール  
を理解させていくというスタンスが必要だと思います。相手に理解させる態度や言葉を、教師  
側がもっておくことです。これも、教師としてのソーシャルスキルです！

③難しい生徒を指導するときは特にですが、生徒に必要な指導を行うタイミング、適度な刺激を  
与えるのにちょうどいいタイミングというのがあります。生徒が素直に教師の話を聴くのは『今  
だ！』という絶妙な場面のことです。それを察知できることも、教師に必要なソーシャルスキ  
ルだといえます。大切なことは、そのタイミングは自分（教師側）のタイミングではなく、相  
手（生徒）のタイミングであるということです。

例えば、やんちゃな生徒に指導するときに、一緒に汗を流した後に話すと、生徒が素直に聞く  
瞬間が生まれます。一緒に部活をした後や作業を行った後などは、生徒の気分がスカッとした  
状態なので、生徒側に心の余裕ができています。人の話を聞き入れることができる状態  
です。そんな場面での話は、生徒の気持ちにスッと入っていきます。もちろん、授業中や部活動  
中などで、許せない態度をとった生徒には、その場で指導することもあります。それも、必要  
なタイミングです。その両方を、瞬時に判断できる力量が教師には必要なのです。

指導された生徒の表情を見ると、その生徒が指導を素直に受け入れることができたのかどうか  
がわかります。口では「反省しています」と言っているけど、その表情で反省はないだろう・・  
ということはありませんね。同じように、教師側もノンバーバル（非言語的）なコミュニケー  
ションを意識するのです。表情で伝えるのです。そうすると、意外に相手が素直になることもあ  
ります。

ソーシャルスキルは「スキル」です。身に付けることができる技能です。

日頃から一貫してきびしい指導をしているのに、生徒からも保護者からも信頼の厚い教師がい  
ます。その先生が素晴らしいのは「人間性」が素晴らしいからだ、その一言で片付けてしま  
うのは簡単ですが、本当にそうなのでしょうか？持って生まれた天性のものなのでしょうか？  
もしかしたらその教師は、日々、自己研鑽しているのかもしれませんが。常に自分の指導を振り

返り、リフレクション（省察）しているのだと思います。リフレクション（省察）とは、自分自身の心のはたらきや状態をかえりみることです。「さっきの指導では、ついつい感情的になってしまったな」「口ではわかりましたと言っていたけれど、あの表情はわかっていないな。どんな話し方をすれば、納得させることができるのかな。何かもっと、具体的な話をしてみようかな。自分の体験談を話してみようかな。もっと生徒の心にグッとくるような言い方はないかな・・・」生徒の立場に身をおいて、心に迫る指導を探しています。

人は感情に左右されます。自分自身の感情に敏感であるだけでなく、他者の感情にも敏感になることで、今までとは違う指導ができるようになるかもしれません。客観的に自分の指導のありかたをリフレクションできることが、教師のソーシャルスキルを磨いていきます。

一貫してきびしく指導しているように見える教師も、実は、見えないところで、生徒や保護者の心をつかむ、細やかな配慮やサポートをしているのかもしれません。

「結果」には必ず「原因」があります。その「原因」を探ることのできる教師、客観的に自分を振り返ることのできる教師でありたいと思います。

### 各クラスの実態に合わせて、教師のリーダーシップスタイル（PM）を変化させる

「教師のソーシャルスキルの3つのポイント」をピシャリと押さえていて、自分のクラスの学級経営は素晴らしいという援助面（M）優位の教師がいたとします。しかし、隣のクラスの担任は指導面（P）優位なので、そのクラスは強制感のあるピシャッとしたクラスだとします。

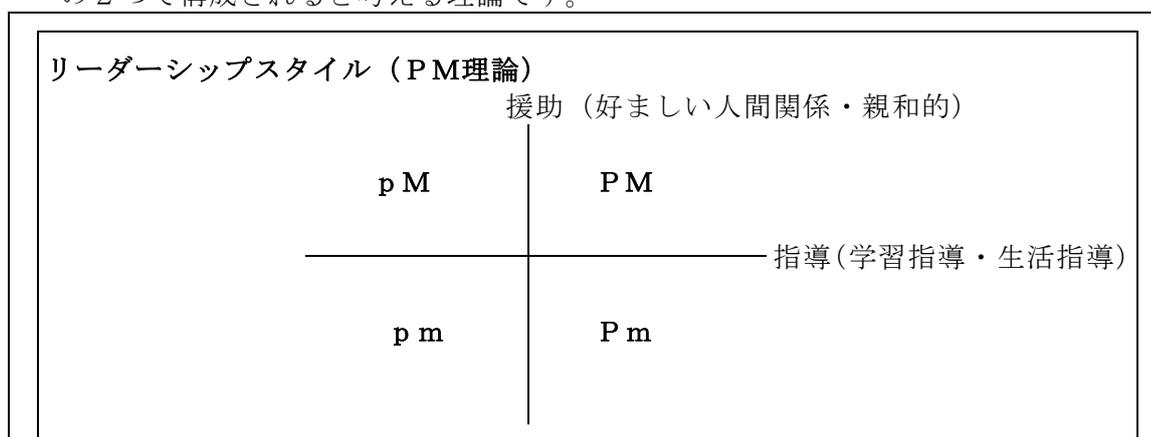
その教師が、隣のクラスで授業をすると、なぜか、生徒の雰囲気がゆるんでしまうことがあります。なぜか？もちろん、いろいろな要素が影響しているので難しいのですが、そのクラスの場合は、きびしく怒ることも必要なのです。そのクラスの実態では、きびしさがないと、生徒に刺激として入らないのかもしれません。

教師が、自分のスタイルに固執せずに、生徒の実態に合わせて、指導面を強めることで、その教師の良さがさらに際立つことがあります。

つまり教師は、指導面（P）、援助面（M）の両方を併せもつことが求められているのです。そのスタイルは、自分の都合に合わせてではなく、生徒の実態に合わせて、変化させるのです。

※リーダーシップ行動理論に「PM理論」があります。

リーダーに必要な行動をP：Performance（目標達成機能）とM：Maintenance（集団維持機能）の2つで構成されると考える理論です。



教師のリーダーシップスタイルに限って考えると、

- 理想的なのは
- ・ PM型：細やかな気遣いの中に強い指導性をあわせもつ教師
  - ・ M型：強い指導はしないが温和で気遣いの細やかな教師
  - ・ P型：一貫してきびしく指導する教師

最悪は

- ・ p m型：放任型教師（放任・なれあい・一貫性なし・計画性なし）

自分のリーダーシップ行動は、生徒にどのように受け取られているか、自分の存在は、学級集団や生徒個人にどのような影響を与えているのかを、リフレクションしてみましよう。

## ○よい授業とは 生徒が

- ①自分の考えをもつ
- ②自分の考えを言える
- ③人の考えをよむ
- ④人の考えを認める（共感的態度）
- ⑤人と学び合う（共学的態度）

※集団のかかわりは、はずせない  
人間形成にもつながる

グループワークトレーニング（GWT）の有効性は、よい授業と相互関連・補完し合っている。

GWTは「互いに意見を述べ合い、聴き合い、まとめあげる。作業を通してひとりひとりが存在感と充実感を得る」

集団の中での意思決定は相互の論理的なやりとりの中で成立する。

そのプロセスを体験できる。

※ GWT と「よい授業」はオーバーラップしているところがたくさんあるので、教師は、GWT のような感じで授業をするという感覚をもつとよい。

GWT と授業をコラボすると、習慣化し、日常化する→定着する→風土になる

### 実践ビデオ：「水族館へご案内」「グルーピング」

#### 情報を組み立てるGWT「水族館へご案内」

##### 【ねらい】

- ・自分もっている情報を正確に伝え、正しく聴くことの重要性に気づく
- ・エクササイズしながらグループ内での自己の役割に気づき、リーダーシップやフォロワーシップを発揮し、協力の大切さに気づく

##### 【進め方】

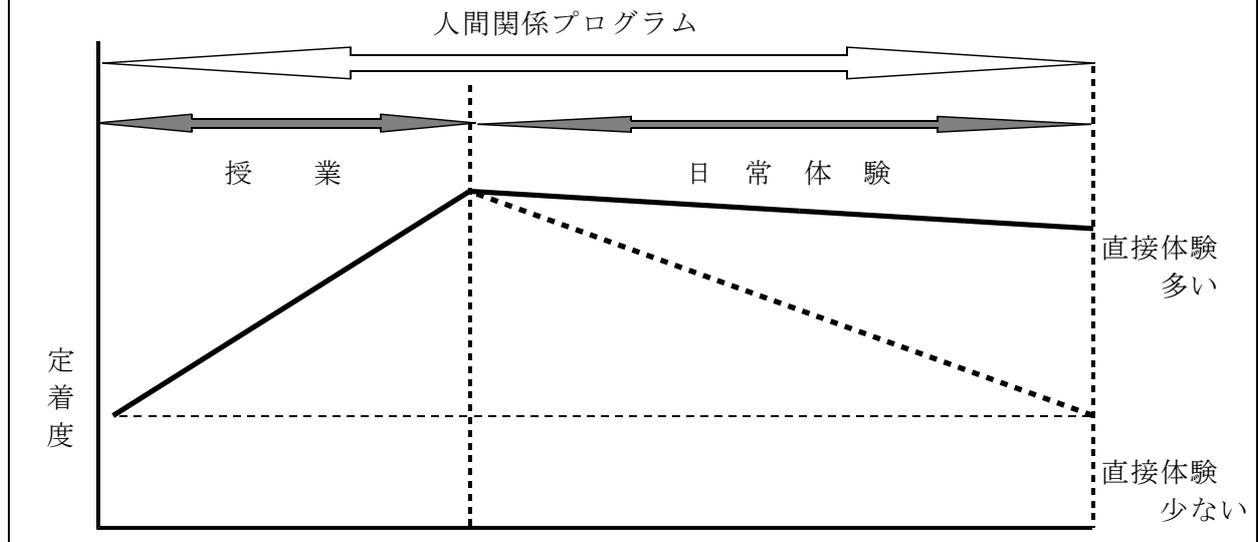
- 1 授業規律「ルールとマナー」の確認。特に班長にリーダーシップの意識をもたせる  
※ゾーンに入るまで意識付けを行う
- 2 班長を集めて、〈水族館の見取り図〉と〈知子さんへの手紙〉と〈グループへの指示書〉を配る  
※班のリレーションを観察する
- 3 もう一度班長を集めて、〈情報カード〉を配る  
※カードの配り方を観察し、きちんとできていない班の班長は指導する
- 4 エクササイズの実施（約 20 分間）
- 5 結果発表
- 6 振り返り  
※発表を交えながらシェアリングする
- 7 まとめ

#### ○導入における動機付け

活動を行うときには、生徒が「やらされ感」をもつのと、「やってみたい」と内発的な動機をもつのでは、大きな違いがあります。何のために、どんなねらいがあって、その活動を行うのかを、教師は導入で伝えます。生徒に伝わることばや表現を工夫します。

ビデオを見ると、黒板に、「道半ば」ということばと「人間関係プログラムの図」（※図 2 参照）が板書されています。

図2 「人間関係プログラム」



生徒をゾーン（集中している状態）に入れてから活動に取り組ませるために、ビデオの中で重枝先生は、次のように生徒に話をしています。「今からみんながする活動では、タイミング良く情報交換して、ワークシートと知子さんの手紙を完成させます。正確な情報が必要になります。手紙ができればいいんですが、みんなならできるので、両方を完成させましょう。みんなが協力して問題解決ができるクラス、班だと、先生は思っています。そういう雰囲気のないクラス、班は、どんなに勉強ができて、伸びない。人間関係をしっかりつくって下さい」

### ○活動時の様子

中学校3年生、2学期の様子です。重枝先生もひとつの班に入って、一緒に活動しています。重枝先生の説明によると、その班のひとりの生徒が、朝から様子がおかしかった（機嫌が悪かった）そうです。そこで、「配慮のスキル」で、意図的にその班で活動したそうです。教師が一生懸命にしていたら、本人もその気になって活動するだろうという考えからです。

このように、状況に応じて、教師も一緒に参加することも大切なことだと感じました。教師自身の研鑽にもなります。

## グループング

### 【ねらい】

- ・グループでの協力体験，共同作業の体験から自他の役割に気づき，協力の大切さに気づく
- ・自己開示や自己表現能力を高める
- ・他者への配慮のスキルを身に付ける

### 【進め方】

- 1 単純に，教師が見せた指の本数の数で，しゃべらないでグループをつくる  
（数回繰り返す。グループに入れなかった人への配慮・・・「グループに入れなくて困っている人に対して，あなたはどうする？」「自分たちは早くグループができたけど，それでいいのか？」「これが自分のクラスの状況だとしたら，何を伝えたい？」「手招きして呼んでいる人，手をつかんで連れて行く人・・・その行動の評価，また，された人の気持ちなどの感情交流（エンカウンター）」）
- 2 ゲーム形式でコミュニケーションをとって集まる（血液型，生まれた月，その他）
- 3 判断が必要で自己開示が高いやり方（「夏と冬」「犬と猫」「卵焼きと目玉焼き」など，3つの意見が一致する人を見つけて○人組になる）

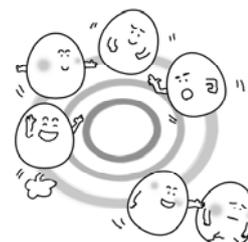
※少し様子を見て，実態を評価したり，親和的ムードをつくって，最終的にグループに分けて

いくと、アイスブレイクとゾーンに入る状態がつかれる。

※グルーピングを数回行いながら、簡単なエクササイズを入れるとよい。

#### 【エクササイズ例】

- ・握手で自己紹介
- ・トラストアップ、フォール
- ・人間知恵の輪
- ・タイタニック
- ・ジャンプ
- ・肩もみ など



※グルーピングのあと、整列・号令などの指導をするのもよい。

### ○導入における動機付け

重枝先生のクラスの生徒が、体育館で活動しているビデオを見ました。まず、重枝先生の語りです。「グルーピングができるということがチームワーク。これができないということは、仲が悪い集団です。せっかく出会ったんだから、仲良くなってほしい。仲良くなれば、自分を出せるようになる。学校生活も楽しく安心できる」生徒は先生の話をしっかり受け止め、ゾーンに入っています。

### ○トラストフォール、トラストアップ

グルーピングトレーニング後にトラストフォールを行っているシーンを見ました。

トラスト＝信頼、フォール＝倒れるという意味です。

内容は、ペアとなり、1人が倒れるのをもう1人が支えることで「信頼感」を体験する活動です。倒れる側は怖い気持ちがあるので、相手を信頼しないと倒れることができません。しかし、勇気を出して倒れたところを相手に支えられたことで、一瞬のうちに信頼感を体験することができます。

やや危険な活動なので、教師はきちんとデモンストレーションを行い、正しいやり方を示す必要があります。そのために、教師側の意図で生徒を指名し、デモンストレーションを行います。まず、重枝先生が倒れます。その時に、支える側は、身体の向きを変えて、真後ろに入ることと、下からしっかりと支えることを教えます。生徒に、そのことをきちんと教えた後に、二人組をつくらせて、生徒同士で活動させます。やはり、体育館での身体をつかった活動は、楽しそうです。

次はトラストアップです。まず、ペアで足の裏をくっつけて座り、両手を握って「せーの」で立ち上がります。次は4人で輪になって行います。気持ちをそろえる心地よさや協力する大切さを体験し、信頼感を培います。これも、重枝先生自ら、デモンストレーションを行っていました。教師が一生懸命活動する様子を見せることは、教師と生徒の信頼関係を培っているように思えました。4人組でのデモンストレーションは残念ながら失敗していましたが、何も成功例だけを示す必要はありません。逆に、生徒の意欲付けにつながっているように見えました。教師が格好をつけずにありのままを見せることは、自己開示と同じく、生徒との心理的な距離を縮めます。

### ○人間知恵の輪

さらに、人数を増やします。5～6人くらいで手をつないで輪をつくり、手や身体をくぐらせて、人間知恵の輪をつくり、それをほどこいていく活動です。身体をつかったり、触れたりすることで、親密感が増します。

今回のビデオでは、1クラスだけの活動でしたが、学年集会で行う、3年生と1年生合同での縦割りで行うなど、いろいろな方法があります。3年生と1年生で行うなどの異学年交流は、行事の前に行うのも効果的です。例えば、体育会前に行うという方法もあります。また、中1ギャップ解消の方途にもなります。3年生にとっては、リーダーシップを発揮する良い機会にもなります。

### ○目標の花束

2学期最初の9月に行ったエクササイズです。2学期の目標を厚紙に書き、ひもをつけて背中につけます。その目標に対して、その人のやる気を高めるメッセージを書いてもらいます。

信頼関係から発せられる仲間のメッセージは、絆意識を高め、自己肯定感を高める効果があります。信頼することは心地よいか感動的といった感情と結びつけるのです。

ビデオを見ると、重枝先生が熱く生徒たちに語っています。「何のために、信頼を高めるトラストフォールをしたんですか？ここで、きちんとするためだよ」

生徒一人一人、スピード感が違います。自分はあまり書いてあげられなかったけれど、友達からたくさん書いてもらった子どもは、そこで何かの気づきがあるはず。人から応援される心地よさを味わうことで、自分も応援したいという気持ちが生まれます。リレーションを高める活動です。

背中につけた厚紙に書くので、生徒たちはどンドンつながって行って、列車ごっこのようになっていました。とても楽しそうな光景です。そのうち、男女が入り交じっていきます。その、ひつつきもつつきしながら楽しそうにメッセージを書いている様子は、かわいらしい、ほほえましい情景です。

背中にあるのでずっと見るができなかったメッセージを、教室にもどってから見る時間も素敵です。何が書いてあるのか、ワクワクしながら読んでいる生徒の顔は、みんな笑顔です。書いてあるメッセージを、きちんと清書して、感想を書きます。

### ○プラストーク合戦

振り返りをしたいけれども、残りあと5分しかないという時にも使えます。とにかく、相手のよさを伝え合います。お互いをほめまくるのです。

これは、伝達力を身に付けるひとつのステップです。紙に書くということはよくします。それを、学級通信にのせたり、教師が読み上げたり、発表させたりというのは、よく行っていることです。次のステップとして、面と向かって言うというのがあります。これを、少しずつ、トレーニングするのです。

最初は30秒ずつでもいいでしょう。クラスの実態によっては、15秒ずつ？10秒ずつ？になるのかもしれませんが、しかし、効果があります。ぜひ、チャレンジしてみましよう！



## 「孫悟空！お師匠様を救え」（カード情報実習GWT）

=  
ねらい

- ・問題解決を通して、グループ内での自己の役割に気づき、場面に応じてリーダーシップやメンバーシップを発揮することを学びます。また、情報の提供や共有のあり方、整理の大切さも学びます。

準備

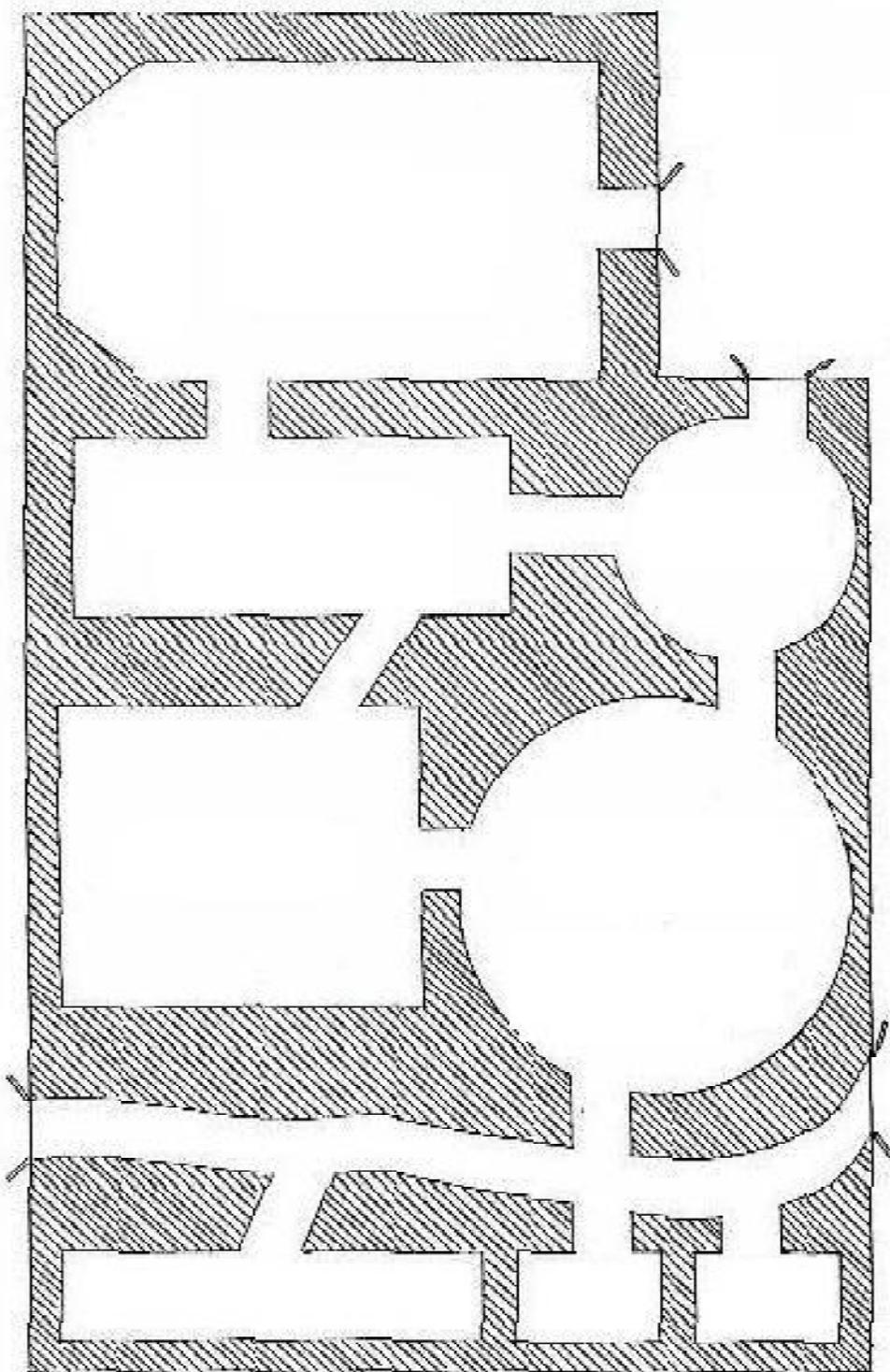
- ・鉛筆各グループに2本 ・消しゴム各グループに1個 ・メモ用紙B4 1枚・「魔界の見取り図」
- ・「孫悟空への手紙（カード）」 ・情報カード（封筒に2枚入れたもの各グループ分）
- ・「解答シート」 ・振り返りシート（個人、グループ）

すすめ方

- 1 グループング（5、6人1組）机を囲んで座る。
- 2 鉛筆、消しゴム、メモ用紙、見取り図、手紙、情報カードを配布する。
- 3 課題とルールを説明する。  
『これから孫悟空は、魔界にとらわれた三蔵法師を助けに行きます。でも、魔界の行き方やどんなモノがあるかわかりません。孫悟空は毛を引き抜いてフーと吹き、分身を偵察にやるのですが、その情報バラバラでよくわかりません。「魔界の見取り図」と行き先さえわかれば、お師匠様を助けられるのに・・・』孫悟空が三蔵法師を助けられるように、孫悟空のかわりにみなさんが情報を整理してください。なお、分身たちは20分で自動的に消滅します』  
  
『みなさんの課題は配られる情報カードをもとに「魔界の見取り図」と「孫悟空への手紙」をつくることです』  
  
『ルールは情報カードに書かれていることは、口頭でのみ伝えることができます。情報カードは決して他の人に見せてはいけません。交換もできません。白紙は自由に使っていいですが、情報カードを丸写しはしないでください』
- 4 エクササイズ開始。早く終わったグループは「個人用ふりかえりシート」を黙って記入させる。
- 5 終わり。「魔界の見取り図」の答え合わせをする。
- 6 ふりかえりシート個人用、グループ用を記入し、生徒の状況を把握しながら、発表、シェアリングする。日常に関連づけたまとめをする。

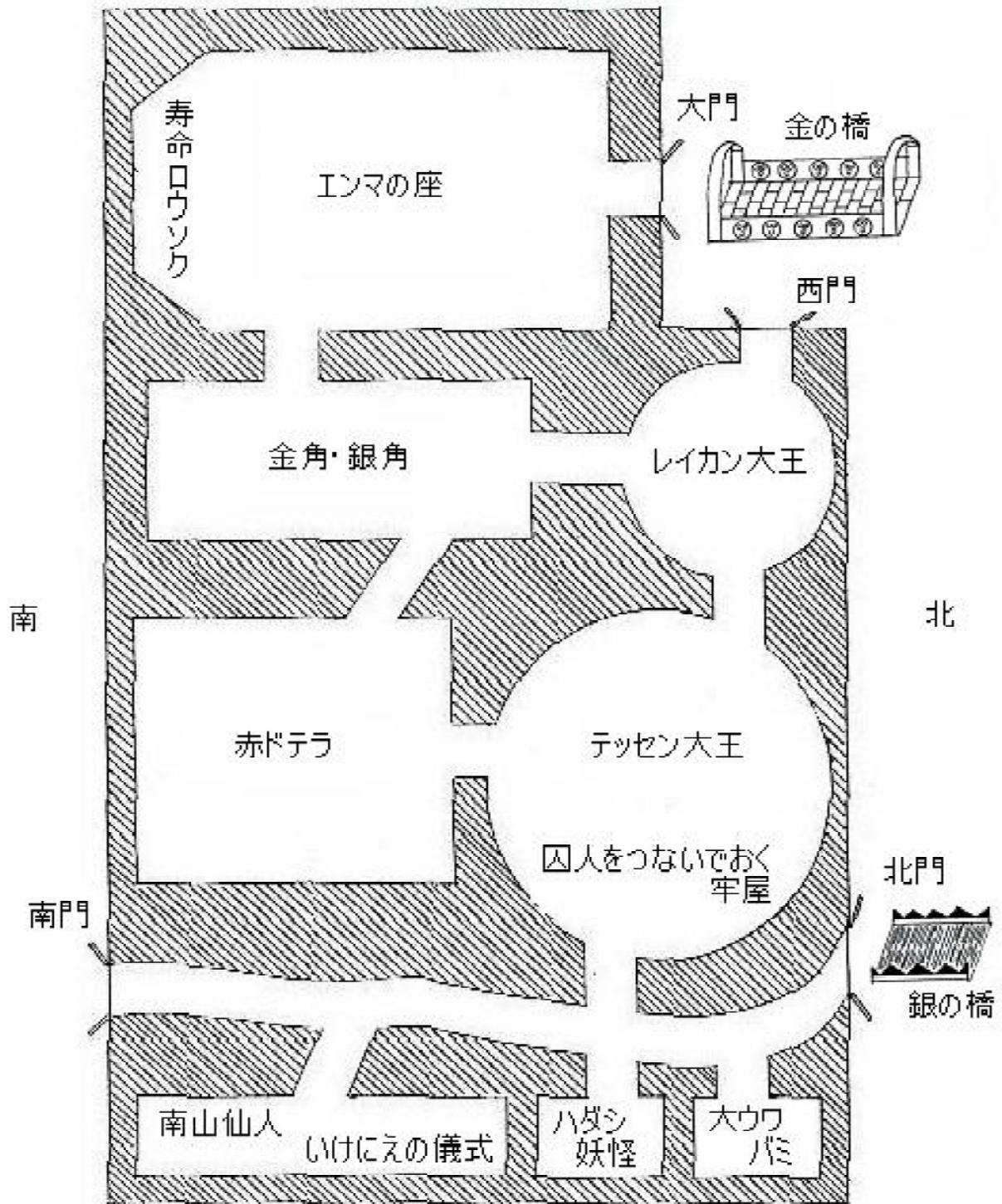
※大王は2人います。（テッセン大王とレイカン大王）これが難しくしているポイント。

魔界の見取り図



解答シート

西



東

※ 金と銀の橋はなくてもよい。

## ワークシート

### 孫悟空への手紙

孫悟空へ

( ) の館で「いりかえの儀式」がある。

午前の儀式が ( ) 時 ( ) 分に終わり、午後の儀式が ( ) 時 ( ) 分から始まる。お師匠様は、午後の儀式が終われば ( ) に食事を運ばされてから、( ) の牢屋にもどされる。その間の通路がチャンスだ。

( ) 門から魔界に入れ。その付近で待ち伏せすれば監視もゆるいので、きっとお師匠様を助けることができるよ。

がんばれ。

( ) グループのみんなより

追伸

魔界の見取り図はもう1枚の紙をみてね。

-----キリトリ-----

### 「正解」

### 孫悟空への手紙

孫悟空へ

( 南山仙人 ) の館で「いりかえの儀式」がある。

午前の儀式が ( 11 ) 時 ( 20 ) 分に終わり、午後の儀式が ( 1 ) 時 ( 30 ) 分から始まる。お師匠様は、午後の儀式が終われば ( 大ウワバミ ) に食事を運ばされてから、( テッセン大王 ) の牢屋にもどされる。その間の通路がチャンスだ。

( 北 ) 門から魔界に入れ。その付近で待ち伏せすれば監視もゆるいので、きっとお師匠様を助けることができるよ。

がんばれ。

( ) グループのみんなより

ふりかえりシート・個人用

名前 \_\_\_\_\_

1. あなたは、自分の情報を正しく伝えましたか。

伝えられなかった  
(その理由は?)

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

伝えた

2. あなたは、他の人の意見をしっかり聞くことができましたか。

聞けなかった  
(その理由は?)

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

聞くことができた

3. あなたは、この課題のルールを守りましたか。

守れなかった  
(その理由は?)

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

守れた

4. あなたの目からみて、この課題をしている時に

- ① 中心になって情報を整理していた人は ( ) さんでした。
- ② グループのためになったことを言ったのは ( ) さんでした。  
それは ( ) という内容でした。
- ③ もっと ( ) して欲しかったのは ( ) さんでした。  
すると ( ) がもっとうまくいったと思います。

5. そのほか、気づいたことを自由に書いてください。

ふりかえりシート・グループ用

グループ名 \_\_\_\_\_

1. この実習中にグループ内で起こっていたことをみんなで思い出して書きましょう。〈ふりかえりシート・個人用〉を参考にまとめましょう。

作業をすすめた事柄・人	こうして欲しかったなあという事柄・人
例) ○○さんの司会の仕方	例) △△さんにもっと話をして欲しかった

2. 再びこのような課題をすることで、よりよく課題を達成するためには、どのようにすればよいと思いますか。

個人的には	グループとしては

## 情報カード

1. 魔界は大門と西門のところが次けている。東西に長い長方形をしており、大門を入るとそこは「エンマの座」です。

2. 魔界の北側にはこの世と魔界をつなぐ「橋」があります。

3. 孫悟空ほどの門からでも魔界に入ることができますが、人間は大門からしか入れません。

4. 大門を入ってすぐの館には、正面に「寿命ロウソク」が見えます。その次の館では「金角・銀角」がヒョウタンを磨いています。

5. 「エンマの座」館は角が2ヶ所欠けた長方形の形をしているし、大王の館は円形の堀で囲まれています。

11. 魔界に入るときは「金の橋」、下界に戻るときは、北門からいちばん近い「銀の橋」を渡らなければ、この世には戻れません。

6. 囚人はいつも「テッセン大王」館の牢屋で鎖につながれていますが、「いりかえの儀式」があるときには、儀式のおこなわれる館に必ず連れていかれます。

7. 「テッセン大王」館は、南門と西門からほぼ同じ距離のところにあります。

8. 食事の時に酒を飲んで寝てしまう「大ウワバミ」館の近くには「銀の橋」があり、この世とつながっています。

9. 「いりかえの儀式」をやる「南山仙人」館の隣には「ハダシ妖怪」館があります。

10. 「南山仙人」館と同じ並びに「大ウワバミ」館があるので、「大ウワバミ」のいびきで「南山仙人」館が揺れることがあります。

17. 三蔵法師は「大ウワバミ」館に昼ご飯と酒を運んだ後、「テッセン大王」館の牢屋に戻させますが、厳しい監視も「館と館をむすぶ通路」ではウソのようにゆるくなります。

12. 「金角, 銀角」館から, 大王の館に行くことができます。

18. 「レイカン大王」館は西門にいちばん近いところにあり, 逃げる囚人を捕まえる役目をしています。

13. 魔界には8つの館があり, 各バケモノたちはそれぞれ1つの館を持っています。

19. 大王のところから, 通路をまっすぐに行くと, 「ハダシ妖怪」館です。

14. 「いかにえの儀式」のためにここを訪れた地方のバケモノたちは, 帰るときにいちばん近い南門を利用します。

20. 午後の儀式が始まるまでは, 三蔵法師は鎖につながれています。三蔵法師は今のところ無事ですが, 儀式でいかにえにされるのも時間の問題です。

15. 「赤ドテラ」館から, 他のバケモノの館を通らずに「テッセン大王」館には行けませんが, 南門には直接行けません。

21. 1回の儀式は20分間おこなわれ, 儀式と儀式の間の休みは40分間です。この40分間に囚人はバケモノたちにムチをうたれます。

16. 「南山仙人」館では「いかにえの儀式」が午前2回, 午後3回おこなわれ, 午前は10時, 午後は1時30分から儀式が始まります。

## 《体験活動の解説》

### 「孫悟空！お師匠様を救え」（カード情報実習GWT）

#### ○ゲーム開始

ビデオで子どもたちが実践している様子を見た「水族館へご案内」とよく似たゲームです。風土会参加の先生たちで体験しました。まず5～6人のグループをつくって机を囲んで座ります。配布されるものは、「魔界の見取り図」「孫悟空への手紙ワークシート」「情報カード」「解答シート」「振り返りシート」です。

魔界にとらわれた三蔵法師を助けに行くために、「魔界の見取り図」と「孫悟空への手紙」をつくるのが課題です。手紙は穴埋めになっています。見取り図には方角も示されていません。ただ、四角や丸の枠と門や通路、橋が書かれているだけです。

3～4枚ずつ配られた情報カードに書かれている内容を、口頭で伝え合い、それをつなげて課題解決をしていきます。一人の発言を聞いたら、その情報に関連する情報を伝えていきます。重枝先生がビデオで言っていた通り、タイミング良く情報を伝え合うことと、正しく情報を伝え合うことが重要です。相手の情報を聞きながら、今まで得た情報を、つなげ合わせる必要があります。これは、言語活動を仕組んだ活動でもあります。



#### ○課題解決につながる「対話」

「私からカードを読みます」「はい、どうぞ」「今のに関連したことが書いてある人いませんか」「あー、ありました」「ここがテッセン大王館じゃないですか」「ということは、こっちが北でこっちが南、西、東になるんですね・・・対話が生まれます。お互いが相手の話をよく聞いて、必要なタイミングで自分も話さないと、課題解決ができないのです。対話によって課題解決を図ります。

難しい課題でしたが、活発に対話が進み、すべての答えを書くことができました。答え合わせをしてみると、全問正解！！「やった～！！」グループみんな喜び合います。いつの間にか、リレーションができています。連帯感や一体感が生まれているのです。

#### ○プラスストローク合戦体験

本日の振り返りでは、さっそく「プラスストローク合戦」を行いました。一緒にゲームをした6人で、2人ずつのペアをつくり、お互いを褒め合います。

私の相手の先生は、初対面の方でしたが、ゲームを一緒にして感じた相手のよさを伝えます。思いつくままに、どんどんほめまくります。30秒なので、時間はあっという間です。次は、自分の番です。どんどんほめていただけます。話を聴いていると、自分の気付いていないことをほめていただき、自己盲点に気付かせていただけます。また、ほめられるのは、ちょっと恥ずかしいのですが、やっぱり悪い気はしません。どんどん気持ちよくなります。まわりを見ると、教室中、笑顔でいっぱいです。

人からほめられる経験というのは、実に気持ちの良いものだ実感！！です。人間関係に不安を覚えている今の時代の子どもたちには、このような体験が必要だと感じます。振り返りの時間に少しでも、プラスストローク合戦の時間をとることを習慣づけると、人間関係が変わってくるかもしれません。

「今日、学校でこんなことをしたよ」と家庭で子どもが話すようになるといいですし、保護者会などで、家庭でもしていただくことを勧められるかもしれません。褒められる気持ち良さを体験することで、人の良さを見つけられる習慣が身につくとよいと思います。

人はどうしても、相手の欠点にばかりとられる傾向があります。その人の良さに着目する習慣が身につくと、人生、幸せに過ごせます。そういう「生き方」や「人間形成」にも結びつけることができる、実は深い活動なのです。

☆ 今回の学習会のキーワード ☆

○教師のソーシャルスキルの3つのポイント

①相手がどのような人か理解し②自分の思いを相手が理解できるような言葉や態度にして③適切に相手に伝える

○ソーシャルスキルの定義：多くの人の中で、まわりの人に受け入れられる形で自分の個性を発揮するために必要な技術

○良い授業：①自分の考えをもつ②自分の考えを言える③人の考えをよむ④人の考えを認める（共感的態度）⑤人と学び合う（共学的態度）



♪学習会に参加された先生方の感想♪（参加人数 23名）

- ・風土会に参加することは、自分自身を生かす、もしくは改革するきっかけになります。ただし、何人かで取り組んで、お互いが感じたことを言葉にする必要があります。その時間をどう作ればよいのか・・・・・・・・
- ・今日のエクササイズは難易度が高く、これができるようになるまでには、積み重ねが大事だと感じましたが、これができる生徒に育てたいという目標ができました。また、教師のソーシャルスキルが生徒を育てる大きなポイントだということを改めて感じました。
- ・生徒のソーシャルスキルはよく聞いていましたが、教師のソーシャルスキルは初耳でした。意識しようと思います。GWTに取り組みます。  
風土会のことをまとめた本「Teacher's Teacher」を購入しました。使っています！！
- ・今日のエクササイズは、今までより難しかったです。教師のソーシャルスキルでは、思い当たることばかりで、考えさせられました。どうしても、これまでの経験で評価・対応してしまう「くせ」が出ている自分に気付かされました。異動したばかりで、かなりストレスがたまっている状態なので、ここに来て楽しく過ごすことができよかったです。
- ・教師のソーシャルスキルは、大変興味をもって聞かせていただきました。今回、学校を変えてうまくいかないと感じていることは、自分の中に原因があるんだと反省、気をつけようと思いました。よいタイミングで聞けたと思います。
- ・教師を志しています。今回の「教師のソーシャルスキル」というテーマは、とても興味深く、大変勉強になりました。どのような教師になるのが、生徒にとって良いのか、自分の教師像と重ね合わせて考えさせられました。「ソーシャルスキル」という考え方を、これからも深く学んでいきたいと思いました。
- ・毎回、今の自分の状況にピッタリ合ったテーマで、びっくりしてしまいます。クラスの状況も新しくなり、自分もどのようにクラスを運営していけばよいのか、悩むことも多くありますが、今日のGWTやプラスストロークの体験、ビデオなどを見て、「ぜひ、やってみたい」と前向きな気持ちになりました。
- ・プラスストローク体験で、ペアでほめ合う時は、ほめられてうれしいような、恥ずかしいような、自分にこんな一面があったことを他者が見つめてくれたんだという感動も覚えました。きっと生徒も同じような気持ちになったのだらうと思いました。
- ・GWTの体験活動では、全く知らない人同士で行いました。緊張して、なかなか自分からカードの内容を読めませんでした。生徒もこうだったのかなと思いました。近々、校内研修会でこのGWTを紹介するつもりです。ありがとうございます。
- ・体育大会前で体はきついです。心は元気になりました。本日「Teacher's Teacher」6冊購入しました。研修の係として、若手と勉強会をします。